

ほっと石川

1997
秋季号

県民と県政のネットワーク誌



金沢市才田町・県農業総合研究センターにて

[特集]

いじめ&不登校を考える

アンケート概要

(児童生徒/小・中・高校生)	
アンケート対象	31,954人
回答人数	29,899人
(保護者)	
アンケート対象	31,954人
回答人数	29,638人
(教職員)	
アンケート対象	10,444人
回答人数	10,088人
(地域関係者)	
アンケート対象	2,160人
回答人数	1,834人
(合計)	
アンケート対象	76,512人
回答人数	71,459人

[特集]

いじめ&不登校を考える

写真提供：北國新聞社



「安心」「信頼」で始まる教育づくりを

「いじめ・不登校」が教育上だけでなく、大きな社会問題になっています。石川県では、いじめ・不登校をゼロに近づけるために学校と家庭、地域社会が一体となり各種活動に取り組んでいます。「安心」「信頼」から始まる教育の確立に向けた取り組みを特集しました。

県民会議を軸に活動

石川県では、昨年四月、谷本正憲知事を会長に、学校関係者やPTA、各種団体で「石川県いじめや不登校のない教育・社会環境づくりを進める県民会議(略称・県民会議)」を発足させ、いじめ・不登校問題の解消に向けた各種事業を展開しています。

石川県教育委員会が、県内小・中・高・特殊学校四百七十一校を対象に調査した昨年のいじめの件数は、六百八十八件(小学校二百八十二件、中学校二百五十七件、高等学校七十七件、特殊教育諸学校二件)。前年の平成七年度が八百件ですから、数字の上では約二〇%減少していることになりました。

アンケートで実態を探る

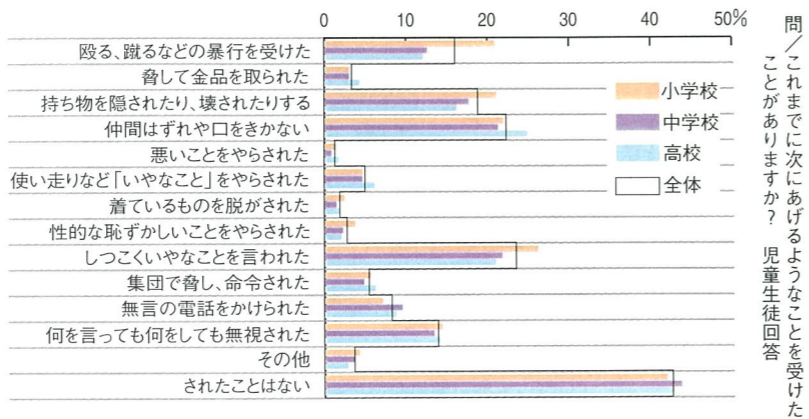
しかし、いじめ・不登校が全くなかったわけではありませんし、その全てが数字に表れているとは言えません。

県民会議では昨年十月、児童・生徒、保護者や教職員、地域関係者を対象に「いじめに関するアンケート」を実施しました。

その結果の一部を3ページに掲載しましたが、いじめの実態の把握や、今後の取り組みの指標となっています。(4ページに続く)

児童生徒 相談しやすい環境が 解決の糸口

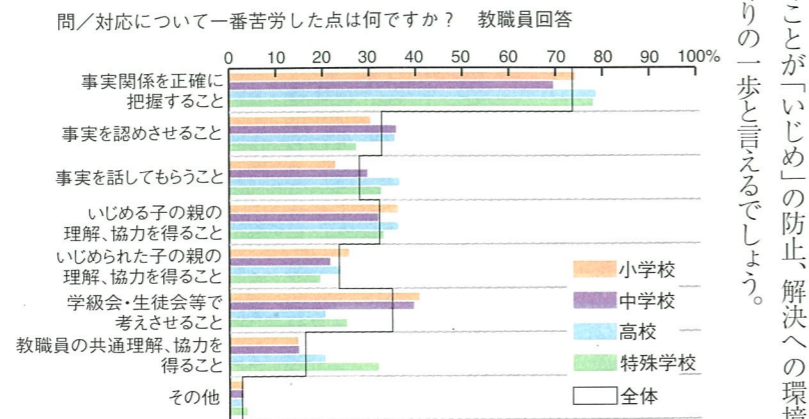
児童生徒を対象にしたアンケートでは、回答人数の四七・二%が「いじめの被害体験がある」と答えています。その中で、全体の四八・七%が、解決策を求めてだれかに相談しており、相談相手は「友だち」が二七・七%と最も多く、次いで「母親」が二三・二%と続いています。相談の結果、「いじめがなくなった」という児童生徒が、五四・六%となっています。いじめの解決の糸口は、まずその実情を身近な人に打ち明けることにあると思われる。いじめの早期発見や解決のため、相談しやすい教育環境、家庭環境をつくることが大切だと言えるでしょう。



教職員 家庭との親密な 連携がカギ

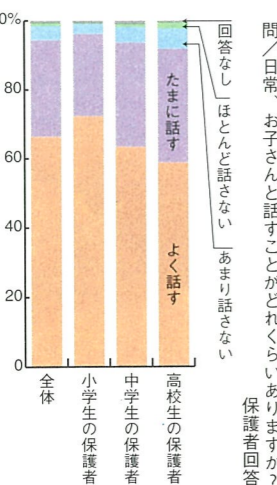
いじめの対応について一番苦労した点として、「事実関係の把握」(七三・九%)、「親の協力や理解を得ること」(五六・三%)が挙げられています。そして、いじめの早期発見、解消のために、「児童生徒にできるだけ声をかける」ことを心掛けている教職員が全体の七六・七%いることが分かりました。

半面、教職員は学校の対応で改善しなければいけない点として、「児童生徒に幅広い生活体験を積ませたり、豊かな人間関係や社会性を育成する」(五九・六%)、「教職員間の情報の共有化」(五六・二%)を感じています。学校と家庭、教職員が密接に連絡を取り



保護者・地域関係者 親子のコミュニケーションが大切

保護者が子供とのコミュニケーションをどのくらいとっているか調べたところ、九四・三%の保護者が「よく話す」「たまに話す」と答えています。その中には、子供とのコミュニケーションを深めることで、子供の個性や可能性を伸ばし、いじめを解消しようとする姿勢がうかがわれます。地域関係者へのアンケートでは、回答者



の四五・三%の方が、「地域の子供は地域で育てる」という意識を持つこと」と答えています。地域コミュニティの深まりが、いじめの解決に大きく寄与することが期待されます。

Contents [目次]

1997 秋季号

- 特集
いじめ&不登校を考える 2
- 県政ウォッチング 6
- 県農業総合研究センター
エッセイ 8
- 山本 圭さん 8
- 知事の窓 9
- ほほえみ 9
- 松任市「山島親和会」
高齢者いきいきサロン 9
- 視点
「Jサイクル」を考える 10
- 施設ガイド 12
- 辰口丘陵公園 12
- 市町村トピックス 14
- 白峰村
白山恐竜パーク白峰
輪島市 14
- 定期船「ニューへぐら」が就航
学びらんど 15
- 社会人を講師に 15

実践・啓発・支援の三本柱で 平成9年度の取り組み(県民会議)

県民会議は、「いじめに関するアンケート」の回答をもとに、平成9年度の「いじめや不登校のない教育・社会環境づくり推進事業」を計画し、積極的に進めています。

また、今年四月、寺井町が、文部省の九年度「いじめ対策地域連携モデル市町村」に指定され、地域一体での活動を展開しています。

ここでは、「いじめや不登校のない教育・社会環境づくり推進事業」の中からいくつかを「紹介しながら、県民の皆さまに、事業への理解と協力をいただきたい」と思います。



いじめ・不登校問題解決に向けた熱意を語る谷本知事

いじめや不登校のない教育・社会環境づくり推進事業

【実践活動】

- ① 子どもボランティア・カウンセラー体験会
- ② 楽しい学校づくり子ども会議 など

【啓発活動】

- ① 演劇公演の実施
いじめを題材とした演劇「この空のあるかぎり」の上演
- ② 子どもの作文・ポスターコンクール など

【支援活動】

- ① 学校への支援
いじめ・不登校の専門相談員の派遣
- ② 家庭への支援
PTA地区ごとにシンポジウム開催 など

子どもボランティア・カウンセラー体験会 楽しい学校づくり子ども会議

カウンセラーの基礎を学ぶ

児童生徒が最初に「友だち」に相談するケースが多いことから、中・高校生を対象に「子どもボランティア・カウンセラー体験会」を実施。話し手と、聞き手の役割を交互に演じる役割演技を通して、いじめや不登校で悩む友人へのアドバイスの在り方などを学んでもらうのが狙い



体験会でカウンセリングの基礎を学ぶ生徒ら

です。

今年度は、金沢市と小松市、鹿西町、穴水町の四会場で、年三回のスケジュールで開催。七月に開かれた金沢会場の体験会には、生徒十一人と教職員四人が参加しました。参加者は「兄弟げんかを止める親」を演じることで、立場による考え方の違いを学びました。

一方、「楽しい学校づくり子ども会議」では、小・中学生が「児童生徒が主人公となる温かく楽しい学校」をつくるために話し合います。加賀と金沢、能登の三地区に分けられ、各地区ごとに約二十人の児童生徒と三、四人の地域住民が意見を交わし、アイデアを出し合います。会議で得られたアイデアや意見は、提言としてまとめられモニター校で実践されます。

寺井町 いじめ対策地域連携モデル市町村 活動の幅を 保育園まで広げる

寺井町では、「いじめ対策地域連携モデル市町村」に選ばれたのを受けて、学校とPTA、地域が一つになり、「健やかな青少年を育てる連絡協議会」を発足させ、各種活動に励んでいます。

同協議会が目指すのは、「いじめ・不登校につながる芽を摘んで、恒久的にいじめ・不登校のない町づくりです。特徴として、いじめ・不登校の予防線に、活動を保育園にまで広げることがあります。

これは、幼少の子供を持つ親も、いじめ・不登校問題を考えてもらいたいとの願いからです。現在、寺井町の保育園では、土曜日に保護者が保育園で子供と過ごす「親子ふれあいデー」や、交替制で毎朝、保護者と園児が保育園でみんなを



寺井町の「親子ふれあいデー」



保護者と園児が毎朝交替で行っている「あいさつ運動」

「心の専門家」を学校に派遣

スクールカウンセラー

迎える「あいさつ運動」が行われていきます。

また、小・中学生の悩みを聞く場として、元学校関係者一人を相談員とする「心の相談窓口」を設置したほか、PTA地区懇談会で地域住民に「子育て」について講演してもらうなど、さまざまな形でいじめ・不登校問題の解消に努めています。

県教育委員会では、深刻化するいじめや不登校問題の解決策として、臨床心理士らの専門家を「スクールカウンセラー」として、県内の小・中・高校に派遣。スクールカウンセラーは二十五人で、県内の十五校に着任しています。

スクールカウンセラーは、子供へのカウンセリングや、教職員や保護者への助言を主な活動とし、これまでに、いじめや不登校の問題を抱える学級担任が、スクールカウンセラーのアドバイスで問題を解決するなどの成果が表れています。

「いじめ・不登校」電話相談一覧

- ▽ いじめ相談テレホン
☎ 076 (298) 1699
- ▽ いじめ110番
☎ 076 (261) 7867
- ▽ こどもダイヤル
☎ 076 (264) 4152
- ▽ 加賀市青少年育成センター
☎ 07617 (3) 0117
- ▽ 小松教育相談室
☎ 0761 (21) 7958
- ▽ 松任市教育センター
☎ 076 (276) 8420
- ▽ 金沢市教育センター
☎ 076 (262) 1110
- ▽ 羽咋教育相談室・やすらぎ教室
☎ 0767 (22) 0345
- ▽ 七尾教育相談室
☎ 0767 (52) 9110
- ▽ 輪島教育相談室
☎ 0768 (23) 1172
- ▽ やすらぎ小松教室
☎ 0761 (23) 6669

お問い合わせ先
 石川県教育委員会学校指導課
 ☎ 076 (223) 9399

■石川県農業総合研究センター
金沢市才田町成295-1
☎ 076(257)6911 ㊚ 076(257)6844



「ふれあい温室」ではふだん目にするこくない熱帯植物が鑑賞できます

Watching

県政ウオッチング

女性リポーターが行く
石川県農業総合研究センター

足腰の強い農業をサポート 「地球へのやさしさ」もテーマに

コメどころとして稲作を中心に高い評価を得てきた石川県の農業。しかし、近年の産地間競争の激化や農作物の輸入自由化、担い手の減少、そして、環境への配慮といったさまざまな問題が、石川の農業を揺さぶっています。今回の県政ウオッチングは、足腰の強い農業の確立を、技術・研究面からサポートする金沢市才田町の石川県農業総合研究センターを訪ねました。



●リポーター
松任市倉部町
さかもと まさこ
坂本 雅子さん
主婦。バスガイドの経験を生かして、現在、観光ボランティアで活躍。ほかにも、さまざまなボランティアに参加。



花粉の人工授精から作り出した稲の苗



電子顕微鏡で、稲の大敵であるイモチの病原菌を見せてもらいました

●農業を使わず害虫退治

最近、「有機栽培」という言葉をよく耳にします。化学肥料を使わず、農薬も極力抑えた農作物を指す言葉ですが、農業総合研究センターでも、多方面での取り組みが行われていました。

例えば、トウモロコシの実につくアワノメイガという害虫。産卵期にこの卵に寄生するハチを使えば、農薬を散布しなくても防除できるそうで、ほかにも、農作物の周りに害虫の好む植物を「おとり作物」として植え、栽培作物を守る方法もあるとか。

安全でおいしい農作物は主婦の立場からも大歓迎です。オタマジャクシやザリガニ採りが好きな子供たちのためにも、環境や自然にやさしい農法がもっとも普及すればうれしいですね。

●コスト削減、省力化へ直播稲作

県内農業の基幹作物と言えば、やはりおコメ。同センター企画調整室長の大江碩也さんの説明によると、昨年、九百五十六億八千九百万円に上った県内の農業生産額の実に六一％をコメが占めているそうです。

とはいえ、近年、輸入自由化などで、コメを取り巻く環境は厳しく、コストダウンが大きな課題になっています。その対策の一つとして、同センターが力を入れているのが稲の直播農法です。直播農法は種モミを水田に直接まくた

試行錯誤の連続にも負けず、付加価値の高い新品種を生みだそうと努力される姿に、頭が下がりました。

現在のテーマは、八月二十日ごろに収穫できる超極早生種の開発。これが成功すると、北陸で最も早い時期の出荷が可能となり、競争力が一段と強まります。私はボランティアで観光案内をしており、このセンターで開発されたおいしいおコメを県外のお客さんに紹介できる日が楽しみです。

●1億円産地に向けて後押し

石川県はコメに比べて、野菜や果樹、花の産地化が、それほど進んでいるとは言えません。農業経営の安定化、多角化を図るため、県では平成四年から県内各地に販売額一億円を目指す園芸産地の拠点づくりを進めています。これらの生産拠点をさらにグレードアップするために、重点振興品目を定め、石川の園芸ブランドとなる青果物や花栽培などの技術開発を行っています。

敷地内の園芸畑にあるビニールハウスに足を運ぶと、周年出荷に向けた花の一つであるトルコギキョウ、露地では百二十品種ものキクが栽培されていました。また、野菜や果樹の品種改良と品質の向上、省力栽培などの研究も地道に続けられており、大江さんは、「産地間競争が激しさを増す中で、農業にはこれまで以上に攻めの姿勢が求められます」と話してくれました。

め、育苗箱で苗を育ててから植える従来の農法に比べて時間と手間が省け、コストは約一八％も下がります。同センターの指導の下、この直播農法を導入する一般農家が少しずつ増えており、今年は八十ヘクタールに上りました。

●新品種誕生には大変な時間

コメは量から質、つまり食味が消費者に好まれるかどうかのポイントになってきています。案内していただいた生物工学実験室では、稲の花粉から新しい品種を作り出す研究の真っ最中でした。食味や収量、耐病性、収穫時期など、多くの条件を検討しながら開発研究が繰り返されます。通常、新品種の誕生までには七、八年の歳月を費やすと言います。新しい石川ブランド米として人気の「ほほほの穂」も、市場デビューまで八年がかかっています。



新品種の育成に向けて培養中の試験管がずらりと並ぶ実験室



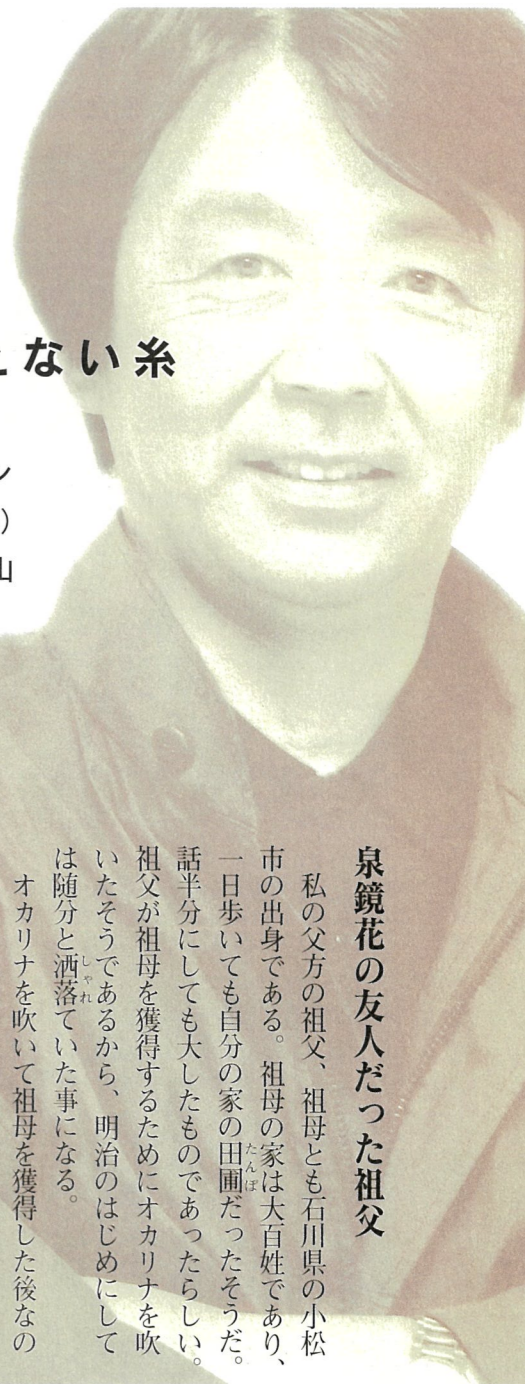
こんなきれいな花が一年中見られればすてき

●家族で楽しめる「ふれあい広場」

農業研究機関と言うと、とても縁遠く感じられますが、センターには一般県民も楽しめる「ふれあい広場」があります。

「ふれあい広場」には、色鮮やかな熱帯植物の観賞できる温室や、農産物の加工、特産品の試作ができる研修施設、池をめぐらせた外観がともおしゃれな休憩施設が整っています。敷地内のリング並木は、秋になると幼稚園児らのリング狩り遠足でにぎわいます。

今回の取材を通して、農業振興には多くの人たちの地道な研究の積み重ねがあることを知るとともに、命をはぐくむ食物の大切さをあらためて考えさせてくれました。



俳優
やまもと けい
山本 圭さん

Essay

祖父の地にひかれる見えない糸

俳優山本圭さんは、10月9日から能登演劇堂でロングラン公演の「いのちぼうにふろう物語」(無名塾)に出演します。公演を直前に控えた山本さんが、山本家と石川県の深いつながりについて寄稿してくれました。

泉鏡花の友人だった祖父

私の父方の祖父、祖母とも石川県の小松市の出身である。祖母の家は百姓姓であり、一日歩いても自分の家の田圃だったそうだ。話半分にしても大したものであつたらしい。祖父が祖母を獲得するためにオカリナを吹いたそうであるから、明治のはじめには随分と洒落していた事になる。

オカリナを吹いて祖母を獲得した後なのかわからないのであるが、祖父は文学者なるものを志し、友達の泉鏡花と歩いて東京へ出て、尾崎紅葉の門下に入るのである。金沢の文学館の館長さんにそんな事実はないと指摘されたのだが、私が読んだ日本文学史の鏡花の頁に、友達と二人で歩いて東京に出たとあつたのを記憶している。

父が設計した富山城

鏡花には溢れる才能があり、英語も良く出来たそうである。私の祖父はどうも紅葉の筆耕が主な仕事だったらしい。祖父の作品なるものは何処にも残っていないのだが、私の叔父の家には筆耕した紅葉の原稿が残っていたそうだが、私は目にしていない。

次に祖父は札幌農学校に入るのである。クラーク先生はもう居なかつたそうであるが、何故、農学校へと方向転換をしたのかよくわからない。その農学校で卒業を間近にして、外人教師排斥運動が起こり、外人教師が重傷を負った事件に巻きこまれたか、積極的に加担したのかはつきりしないが、結局は農林省の平官吏として一生を過ごすのである。



「いのちぼうにふろう物語」で、「名のない男」役を演ずる山本さん(写真右から2人目)

平官吏として各地を転々とし、鹿児島に居た時に産まれたのが、映画監督として名を成した山本薩夫である。因みに私の父は建築家になり、学生時代のコンペでクラーク先生の像の台座を設計するのだから不思議な因縁である。富山城も父の設計だった。祖父の子供達には優れたものが多く、長女の夫は、戦後、最初にイランから石油を運んだ日章丸の船長だったし、長男は農学博士で、安曇野に米を持ちあげた人と聞く。

奇縁を感じ、奇縁を大切に

孫の私は石川県とか小松市などを特に強く意識したつもりはないのだが、そう言えば高校生時代はいつもオカリナを持っていたし、祖父の好んだ囲碁の棋士と結婚したし、白山の僻村塾の教師の末席に連なっているし、この十月には能登の中島町に出来た劇場で「いのちぼうにふろう物語」の1カ月公演にも出演するのであるから、祖父たちが私を呼んでいる事になるのかどうか、これも良くわからない。



プロフィール

昭和15年7月1日大阪市生まれ。成蹊大学政経学部を経て、38年俳優座養成所卒。37年に映画デビューし、これまでに多くの舞台、映画などに出演。現在も舞台や映画、テレビなどで幅広い活躍を見せる。兄の学さん、弟の巨さんも俳優、夫人は囲碁棋士の小川誠子さん。



ニワトリが先? 卵が先?

ペットボトルのリサイクルが今年四月から本格化しましたが、県民の皆さんからは「回収の際、キャップやシールを取ったり、透明と色つきのものを分別するなど手間がかかり過ぎる。容器の統一をメーカーに指導できないのか」との声をよく聞きます。これに対して、メーカー側は、「多様な容器は消費者ニーズの反映」と言います。

この問題には、「ニワトリが先か、卵が先か」に似たところがあると思います。つまり、リサイクルに都合の悪いペットボトルの氾濫は、メーカーが外見で消費者の購買意欲を刺激する結果なのか、それとも消費者がそういう商品を求めているためなのか、です。

もちろん、深刻化するごみ問題の解決には、消費者とメーカー双方の理解と協力が不可欠な

こととは言いつまでもありません。ただ、これからのリサイクル社会を築いていくためには、効率性や利便性を多少犠牲にしても、環境へのやさしさを優先させるなど、私たち消費者が生活のあり方を少し変えていく必要があるようです。

また、商品が環境問題を十分配慮して作られているかどうか、メーカーの姿勢を厳しくチェックする目が大切になります。リサイクルで生み出される再生品の積極的な利用もそうです。例えば、古紙一トンは成木二十本分のパルプに相当するそうです。古紙から作る再生紙の利用を増やせば増やすほど、自然をそこなわずに済むわけです。

未来の世代から借りている地球を、可能な限り負荷を与えず引き継いでいく。遠大なテーマですが、実は一人ひとりのちよつとした心がけが一番のカギなのです。

(谷本 正憲)



石川のボランティア

自主企画で運営

松任市山島地区の老人クラブ「山島親和会」では、会員が住み慣れた地域でいつまでも生き生きと暮らせるようにと、毎月第三木曜日、「高齢者いきいきサロン」を自主的に開いています。サロンの参加者は、この地域に暮らす七十五歳以上のお年寄りで、食事会などの企画・運営は同クラブの若手の会員が当たります。

取材で訪れた七月のサロンには、二十六人が参加。林政伍会長のリードで、円になって歌つ



島崎繁子さん(中央)ら会員が考えたゲームをみんなで楽しむ

山島親和会「高齢者いきいきサロン」(松任市)

合言葉は

「外に出て大きな声で笑おう」

たり、とんちクイズなどを楽しみ、会場内は笑い声の絶えない和気あいあいとした雰囲気になっていました。

ゲームの後は、食事です。食事の準備には、六人の会員が当たり、前日から食材の準備を行い、メニューはパターン化しないよう注意を払い、なるべく季節のものを取り入れて、健康にも十分気をつけているそうです。月に一度のサロンを楽しみにするお年寄りも多く、生きがいづくりの拠点にもなっているようです。

林会長は「外に出て思いっきり笑うことは健康にとっても大切です。いきいきサロンは、私たちにとっても生活にはりを与えてくれます」と話してくれました。

住みよい地域は自分たちの手で
ゲームや、保健婦さんを招いての健康管理講座、食事会などのサロンの内容は、会員自らが協議して決めます。これも、高齢者にとって住みよい地域は、



食事はすべて会員の手づくり

自分たちの手という思いからです。このように、お年寄りが相互に支え合い、助け合う地域づくりを目指して、平成七年度にスタートした「高齢者いきいきサロン」も、現在では地域の皆さんのご理解、ご協力のもと、県内の四十五地区で実施されています。

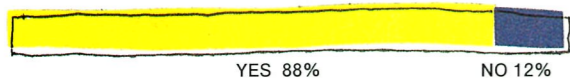
【お問い合わせ】

石川県厚生部長寿社会課
☎076(223)9126
☎076(223)9475

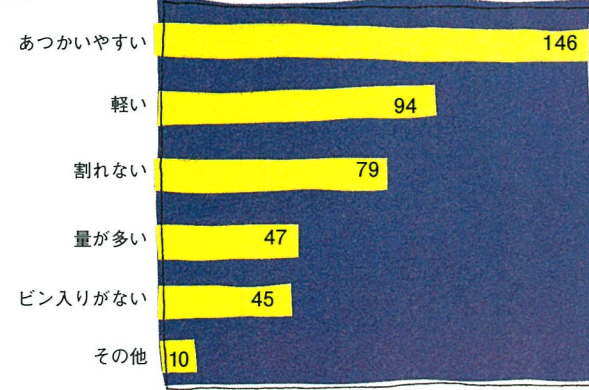
ペットボトルについてのアンケート調査結果

調査対象/石川県内生活学校のメンバーら300人
 平成8年11月、石川県生活学校連絡会実施

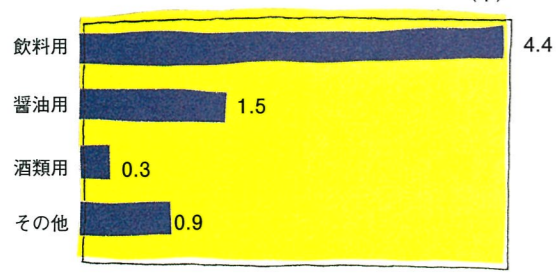
Q ペットボトルがリサイクルできることを知っていますか？



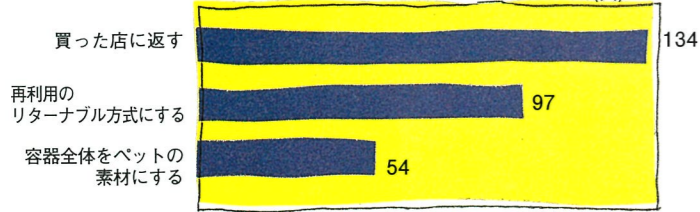
Q ペットボトル入り飲料を買うのはなぜですか？ (人)



Q あなたの家庭では、リサイクルできるペットボトルを1か月でどのくらい消費していますか？ (本)



Q ペットボトルをどうすればリサイクルしやすいと思いますか？ (人)



(注) リターナブル方式とは、容器などの製品を何度も繰り返し再利用すること。

- 出席者(石川県生活学校連絡会)の皆さん
 写真左から (敬称略)
- 吉村 守子
 - 書記 (松任市生活学校書記)
 - 松田 有子
 - 書記 (七塚町生活学校代表)
 - 蓮本 年子
 - 副会長 (羽咋市生活学校代表)
 - 林 よし枝
 - 会長
 - 山崎 八洲恵
 - 副会長 (金沢市芳斉生活学校代表)



リサイクルできるペットボトルにはこのマークがついています。



視点

Close up

「リサイクル」

を考える



ペットボトル回収の現状

林/今年四月から施行された容器包装リサイクル法の目的は、容積比で廃棄物の六割を占めている容器包装廃棄物を減らし、再商品化するために、国、地方自治体、消費者、事業者がそれぞれの責務を果たすことにあります。その対象品目の一つであるペットボトルの回収は、皆さんの地域でどの程度進んでいますか。

一人ひとりのリサイクル運動が 住みよい地域社会を築き上げる

や販売店を指導、支援して、価格面など買いやすい環境をつくってほしいものです。吉村/買い物に行っても、再生品を見つけないのが大変です。店内に「再生品コーナー」を設けてほしいものです。

松田/大手メーカーが再生品の製造に力を入れていないのも大きな理由の一つです。価格差の問題とともに、消費者がメーカーや小売店にもっと再生品のニーズを訴えていかなくては駄目です。

身の回りからできる環境保全

山崎/資源は限られたものであり大切にすると意識が何より重要です。その商品やものが自分にとって本当に必要なのか、

容器包装リサイクル法の施行や省資源、環境保護意識の高まりを受けて、近年、国民の間で「リサイクル」への関心が高まっています。今回の「視点」は、資源ゴミの分別収集や再生品の利用拡大に取り組んできた、石川県生活学校連絡会(会員数約二千三百人の代表者五名にご登壇いただき、「リサイクル」について話し合ってもらいました。

吉村/松任市は現在、月一回、回収を行っています。容器の色や形に分けての分別収集が徹底されています。ただ、月一回の収集では足りないとの声が多いですね。

松田/七塚町も月一回で、出し方のマナーは比較的守られています。しかし、容器によつては取っ手が付いていて、部分的に切り落として出さなければいけないものもあり、不便さを感じます。

蓮本/確かに、容器の形状の規格化など製造メーカー側にも善処が求められます。羽咋市では集積所に監視員を立て、六月から月二回のペースで回収しています。

山崎/金沢市芳斉地区も月一回ですが、残念なことに、金沢市ではペットボトルを埋め立て処分しているのが現状です。

足元を見つめ直すところから、リサイクルも出発するような気がします。

林/いま、生活学校では、全国規模で「デポジット方式」の推進に取り組み始めたところですが、デポジットは、容器の回収を促進するために容器入りの飲料などに一定の金額を上乗せして販売し、容器を返せば返金されるという制度です。

蓮本/ゴミを資源として返すという発想を広げたいですね。空き缶のポイ捨てがよく目につきますが、この現状をまず大人から反省し、子供たちにもゴミ問題についての教育を徹底する必要があると思います。

林/ゴミ問題と言えば、これまで女性が中心になって取り組んできましたが、男性ももっと参加すべきです。ゴミ問題は、環境

「無駄なゴミを出さない」が基本

松田/ペットボトル容器のリサイクルには、多くの課題が残されています。回収しやすくするよう容器の規格化もそうですが、再利用できるような丈夫な素材に切り替えられないものかしら。

吉村/「再利用する」という考え方に私も賛成です。素材の強化とともに、ペットボトルを買い求めたお店に返す方法なら、回収が促進されると思うのですが。

山崎/消費者も、同じ商品ならペットボトルでなく、再利用可能なビンや紙パックを買うという意識の転換も大切なのではないでしょうか。

蓮本/ペットボトルを買わないという考え方は、「無駄なゴミを出さない」ということにもつながりますよね。買い物の際も、自宅から買い物かごなどを持参すれば、毎回、店の買い物袋を使わなくて済みます。

積極的な再生品の利用を

林/ところで、再生品がもっと安ければ、利用もさらに拡大すると思います。トイレトーパーなどを買いに行っても、再生品のバーゲン商品は見つけにくいですね。

山崎/生産コストや流通の問題もあるでしょうが、消費者の積極的な購入も必要ではないでしょうか。行政は、県民が再生品を利用するようPRするとともに、メーカー

問題と同時に経済性も問われます。ゴミ処理には膨大なコストがかかるし、そのお金は税金から出ているのだという意識を一人ひとりに持っていたいただきたいものです。

利用案内

●開園時間

午前9時～午後5時
※ただし、テニスコートは午後9時、
温泉プールは午後8時までです
(温泉プールの開・閉館時間は期間に
よって変わります)

●利用期間 1月2日～12月28日

●お問い合わせ先

辰口丘陵公園
☎0761(51)4166(代)
料金、利用時間などの詳細は電話でお
問い合わせください



[周辺ガイド]

平成11年秋ごろには、新しい
かわ動物園が辰口丘陵公園のす
ぐそばの丘陵地に移転オープン
する予定です。動物園ではゾウ
やキリン、ライオン、シマウマ
など、お子様に人気の世界の動
物たち約133種、600点が飼育、
展示されます。

●お問い合わせ先

県民交流課 ☎076(223)9105

ボートの池にはコイも
次は歩美さんがお待ちかねのボ
ートへ。北川さん一家は、コイのえさ
を片手に、ヘリコプター型のボ
ートに乗り込みました。広さ一平方メ
ートルの池にはこのほかに、白鳥
型やジェット機型のボートがたくさ

サイクルトレインも仲良く
自転車乗り終えた北川さん一家
は、多目的広場でしばらく休憩し、
今度はサイクルトレインに向かって
歩き始めました。途中、木陰を歩い
ていた和歩くんは、シヨウリヨウバ
ッタを見つけ、うれしそうにのぞ
き込んでいました。
サイクルトレインは足でこぐ十両
編成の機関車で、一周が約三百四十
メートル。すぐそばの池で水遊びを

している様子をうらやましそうに眺
めていた幸歩ちゃんですが、乗り場
のグリーン辰口駅の機関車を見つけ
てすっかりご機嫌。
一番前の座席に飛びつき、進さん
の膝の上に、お姉ちゃんの歩美さん
と並んで座りました。後ろの席では
和歩くんと美保子さんが楽しそうに
話しています。
「ポー」という発車の合図と同時に
機関車は出発。初めはぎこちないこ
ぎ方でしたが、無事に二周を終え、
幸歩ちゃんたちはいかに満足そう



ボート遊びでは、カモやコイがあいさつにきました

ん浮かんでいます。
進さんの運転するボートは、ゆっ
くりと池を周遊。歩美さんや和歩
くんが池に向かってコイのえさを投げ
始めると、コイだけでなくアヒルや
カモまでが一斉に集まってきました。
池を眺める子供たちの表情は明る
く輝き、公園での楽しい一日にすっ
かりご満悦のよう。
辰口丘陵公園では、このほかに
県内随一の規模を誇る二十二面のテ
ニスコートや温泉プール、迷路と展
望台のある冒険の森、遊戯広場など、
親子で楽しめるさまざまな施設があ
り、休日は家族連れや若者たちのグ
ループでにぎわっています。



スピード感あふれるローリングサイクルに思わず絶叫



「さあ、競争だ」元気よく変形自転車をこぎます



「う～ん、どっちな？」巨大迷路では迷子に…



鉄橋あり、トンネルあり。サイクルトレインで
のんびり小旅行

施設ガイド
辰口町徳山
辰口丘陵公園



- 案内役
美川町井関町
北川 すすむ (会社員)
美保子さん (主婦)
歩美さん (10歳)
和歩くん (7歳)
幸歩ちゃん (2歳)

変形自転車に挑戦!
加賀産業開発道路に面した、なだ
らかな丘陵地に開ける辰口丘陵公園。
約四十ヘクタールの敷地には、自由
に楽しめる多目的広場をはじめ、親
子で利用できる各種の乗り物や設備
がたくさんそろっています。
初めての幸歩ちゃん以外は今回が
二度目という北川さん一家は、まず
二人以上が同時にこぐことのできる
変形自転車に挑戦です。

二人乗りのサイドカーには運転
手の美保子さんと和歩くんが乗り込
み、ファミリーサイクルには歩美さ
んと進さんが、後部座席中央に幸歩
ちゃんを乗せて自転車はスタートし
ました。
「やってみよう」と、真つ先に運転
を始めた歩美さんですが、思い通り
に前に進めず悪戦苦闘。後ろから追
い越そうとした美保子さんに向かい、
「おいて行かないで」と元気いっぱ
いに叫ぶのは幸歩ちゃんです。

緑豊かな広大な敷地に広がる辰口丘陵公園は、サイクルトレインあり、ボ
ート遊びありと、今ではすっかりレクリエーションのメッカとして知られて
います。今回は、美川町井関町にお住まいの北川さん一家に案内していただ
きました。

気軽に楽しめるレクリエーションのメッカ

クイズ みんなで チャレンジ

全問正解者の中から抽選で50名の方に、
いしかわ動物園のテレホンカードをプ
レゼントします。ふるって応募くだ
さい。

Q1 幸歩ちゃんが乗っていた変形自転
車は何でしょうか？

- ① サイドカー
- ② ファミリーサイクル
- ③ ペアサイクル

Q2 機関車の型をしたサイクルレ
イン。一周は何メートルでしょ
うか？

- ① 34メートル
- ② 340メートル
- ③ 34キロメートル

Q3 北川さん一家が乗ったボートの型
は何でしょうか？

- ① 白鳥
- ② ジェット機
- ③ ヘリコプター

はがきに、クイズの解答と住所・氏名・
年齢・職業・電話番号を明記のうえ、
〒92080 (住所不要)
石川県広報広聴室
「ほっと石川」係
までお送り下さい。
締め切りは
平成9年11月末日。



市町村トピックス

TOPICS

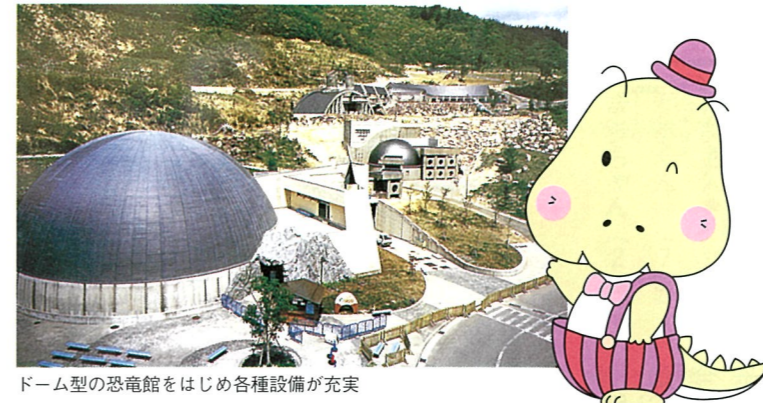
石川県には、41市町村があり、それぞれ工夫を凝らした個性あるふるさとづくりを進めています。このコーナーでは、各市町村の話題を取り上げて紹介します。

白峰村

●白山恐竜パーク白峰 大自然で恐竜に出会える

恐竜の歯の化石の発見を機に、恐竜を村発信のキーワードに掲げる白峰村。その核となる恐竜館に、今年四月、新たにテーマ館が増設され、名称も白山恐竜パーク白峰として再オープンしました。

オープンしたテーマ館はふるさと映像館とふれあい館、化石工房の三棟。ふるさと映像館では、九面マルチシアターを完備



ドーム型の恐竜館をはじめ各種設備が充実

マスコットキャラクターリゆうくん

して恐竜の迫力ある映像が観賞できます。化石工房は恐竜をはじめ、さまざまな動植物の化石を展示し、恐竜のパソコンゲームなど化石に関する情報発信基地となっています。休憩スペースのふれあい館では、最上階から手取川ダムや白山の美しい自然を眺めることができます。屋外には、化石採集が体験できる化石発見広場や四十メートルのダイナスライダーを備えた自然体験広場があり、遊びの要素も盛りだくさん。新しい施設の誕生により、「見る」から「体験しながら楽しむ」テーマパークに生まれ変わりました。

同パークでは「親子で楽しみながら、恐竜や化石のことを学べるふれあいの場を目指します」と話しています。

お問い合わせ

石川県白峰村字桑島4-99-1

☎07619(8)2724

入館料 大人 800円

(高校生以上)

子供 400円

(小・中学生)

団体割引20名以上1割引

開館時間 午前9時～午後5時

(ただし入館は4時半まで)

休館日 毎週木曜日

(夏休み期間を除く)

●祝日の場合はその翌日

●冬期間は休館します

輪島市

●「ニューへぐら」が就航 船倉島が一段と近く便利に



輪島港と船倉島を結ぶ「へぐら航路」にこのほど、新型船の「ニューへぐら」が就航しました。「ニューへぐら」は全長三十七メートル、幅六・五メートル、総トン数百二トンで、輪島港―船倉島間を従来より二十分早い一時間半で結び、定員も九十六人から百十九人に増えました。

船倉島は輪島港の北五十キロメートルにあり、周囲六キロメートル、面積六十ヘクタールの小島で、アワビなど魚介類の宝庫となっています。また、島全体が野鳥の保護区となっており、春、秋はバードウォッチャーで

にぎわいます。島の周辺は絶好のフィッシングポイントにもなっています。へぐら航路はこれまで一日一往復でしたが、漁業関係者や観光客が多く訪れる夏場の七月二十一日から八月二十一日までの一カ月間は一日二往復に増便され、利便性を高めました。一度、「ニューへぐら」で船倉島まで足を伸ばしてみたいかがですか。

3月1日～10月31日

(左記の夏期・冬期運航を除く通常運航)

輪島発 9時 10時半 船倉島着

船倉島発 15時 16時半 輪島着

7月21日～8月21日(夏期運航)

輪島発 8時 9時半 船倉島着

船倉島発 13時 14時半 船倉島着

船倉島発 10時半 12時 輪島着

船倉島発 15時 16時半 輪島着

11月1日～2月末日(冬期運航)

輪島発 9時 10時半 船倉島着

船倉島発 14時 15時半 輪島着

料金 片道 大人 1900円

小人 950円

団体割引 (15名以上1割引となります)

※天候によって運休あり

お問い合わせ

へぐら航路株式会社

輪島市鳳至町下町166

☎0768(22)4381

☎0768(22)7229

「開かれた学校」を目指して

チームティーチングモデル事業



社会人を講師に 地域色豊かな授業

石川県教育委員会は、幅広い経験や知識、技能を持つ社会人を講師に迎える「チームティーチング」モデル事業を今年度より進めています。チームティーチングのねらいは、児童・生徒の個性を伸ばすとともに、教職員が社会人講師と協力することで「開かれた学校」づくりを目指すことにあります。そして、地域の特色を授業に盛り込むことで、自分たちの足元を見つめ直し、ふるさとへの愛着と関心を深めてもらうことにポイントを置いています。



能登島中学校で行われている弓道のチームティーチングの風景



目を輝かせながら、岡本さん(左)から弓道を学ぶ生徒

チームティーチングは年間三回の授業で、一教科につき五回を原則に行われます。現在、七塚町立七塚小学校、小松市立苗代小学校、穴水町立穴水中学校、能登島町立能登島中学校の四校をモデル校として実施。今年度の講師には、輪島塗など伝統産業の職人や老人会、ボランティアグループなどさまざまな分野の方を迎えています。授業内容も、ふるさとの歴史や変遷から、魚の調理や特産品作り、昔の遊びまで、いつもの授業とは一味も二味も違うユニークなものとなっています。

初めての弓道に 好奇心いっぱいの子供たち

能登島中学校では、ガラス工芸や焼き物、弓道などの授業を実施

弓道の授業では、講師に公民館で十回の授業で、一教科につき五回を原則に行われます。現在、七塚町立七塚小学校、小松市立苗代小学校、穴水町立穴水中学校、能登島町立能登島中学校の四校をモデル校として実施。今年度の講師には、輪島塗など伝統産業の職人や老人会、ボランティアグループなどさまざまな分野の方を迎えています。授業内容も、ふるさとの歴史や変遷から、魚の調理や特産品作り、昔の遊びまで、いつもの授業とは一味も二味も違うユニークなものとなっています。

岡本さんは「日本古来の武道である弓道の伝承もさることながら、生徒たちが好奇心を持って取り組んでいることがうれしい」とチームティーチングに手ごたえを感じています。同校の田村校長は「ガラス工芸などもあり、地元の特色を学ぶ授業は、生徒に大きなプラスだと思う。また、地域と学校のコミュニケーションも図られ、学校の雰囲気明るくなった」と期待を寄せています。

能登島町立能登島中学校		穴水町立穴水中学校		七塚町立七塚小学校	
1年	古墳を探る(須曾蝦夷穴古墳)	2年	ダンス/ハーブ	3年	染色(草木染め)
2年	案山子焼き(陶芸) / ところてん作り	ゆとりの時間 園芸			
3年	弓道/ガラス工芸品の制作				
3年	「変わってきた人々の暮らし」/ 木場潟の水生植物について考える				
小松市立苗代小学校		4年	「わたしたちのくらしと商店街」	社会科 クラブ	
4年	「カブトムシの越冬」	4年	「火事を防ぐ」		
5年	「木場潟の水質問題を考える」	5年	「伝統工業の町を訪ねる」		
6年		6年	「歴史」		
				家庭(調理) スポーツ 手話 工作	

九年度モデル事業実施校

岩城宏之指揮／
モーツァルト：オペラ「魔笛」
●11月3日(祝) ●金沢市観光会館
●S席 ¥8,000 (指定席)
●A席 ¥5,000



「ロシア・イルクーツク州美術展」
●9月28日(日)～
10月26日(日)
●石川県立美術館
●¥800

世界で活躍する
「中村攝・西澤和江
ジョイントコンサート」
●12月15日(月) ●金沢市民芸術ホール
●¥1,000



石川の民俗芸能
「石川の民謡と太鼓」
●10月12日(日)
●松任市民会館
●¥1,000

文化庁芸術祭石川公演

石川の芸術の祭典
伝統の大地に創造の風

期間
平成9年9月～12月

仲代達矢 無名塾
「いのちぼうにふろう物語」
●10月9日(木)～11月10日(月)
●能登演劇堂
●大学生以上 ¥6,500 (当日 ¥7,000)
●高校生以下 ¥2,000



「千住真理子と
オーケストラ・アンサンブル金沢」
●10月24日(金) ●内灘町文化会館
●¥2,000

「ジャズとシャンソンの調べ」
●11月7日(金) ●小松市民センター
●11月8日(土) ●石川県女性センター
●11月9日(日) ●七尾美術館アートホール
●¥2,000



石川の民俗文化とファッション
パフォーマンス
「いしかわの四季」
●11月8日(土) ●金沢市文化ホール
●¥3,000 (当日 ¥3,500)

石川の伝統芸能「いしかわの箏曲」
●11月16日(日) ●金沢市文化ホール
●¥1,000



古代宮廷音楽「天平楽府」
●11月16日(日) ●穴水ラベンダーホール
●11月17日(月) ●金沢市文化ホール
●¥2,000



「コーラス in いしかわ」
オーケストラ・アンサンブル金沢とともに
●11月28日(金) ●七尾サンライフプラザ
●11月29日(土) ●野々市フォルテ
●¥2,000

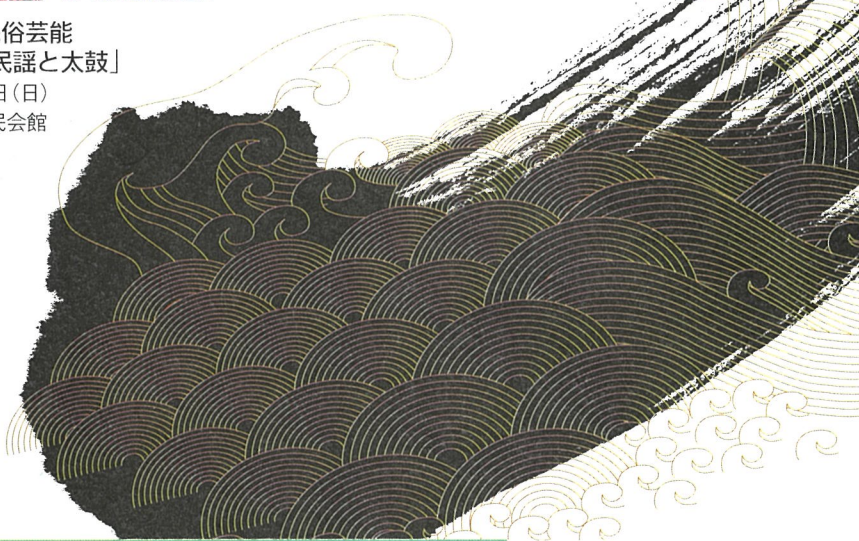
石川の伝統芸能
「いしかわの邦楽・舞踊」
●11月30日(日) ●金沢市観光会館
●¥2,000

音楽座ミュージカル「泣かないで」
●12月8日(月) ●加賀市文化会館
●指定席 ¥4,500 ●自由席 ¥3,500
●高校生以下 ¥2,000

「ルクセンブルグのピアノの調べ」
●12月15日(月) ●根上町タント
●¥2,000

「パヴェル・コーガンと荘厳ミサ曲・千鳥」
●12月21日(日) ●金沢市観光会館
●指定席 ¥5,000 ●自由席 ¥4,000

オーケストラ・アンサンブル金沢
メンバー達の「金管アンサンブル」
●12月25日(木) ●珠洲商工会議所会館
●¥2,000



主催
文化庁・石川県・文化庁芸術祭石川公演実行委員会・
(財)石川県芸術文化協会・金沢市・七尾市・小松市・
輪島市・珠洲市・加賀市・羽咋市・松任市・根上町・
美川町・野々市町・宇ノ気町・内灘町・富来町・中島
町・鹿島町・穴水町

お問い合わせ先
文化庁芸術祭石川公演実行委員会
☎076(223)9116
(財)石川県芸術文化協会
☎076(260)3413



「ほっと石川」では、「県政ウオッチング」に登場していただく女性リポーター、「施設ガイド」で県営施設の案内役をお願いする家族を募集しています。お問い合わせ、申し込みは、
〒920-8080 (住所不要)
石川県広報広聴室「ほっと石川」係
☎076(223)9106
☎076(223)9474
住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して下さい。

編集後記
「ほっと石川」を読まれている県民の皆さまから、いろいろなお便りが届きます。一つ一つ、ご紹介することはできませんが、皆さまのご感想やご意見を少しでも誌面に反映させるよう努力しています。これから、お便りをお待ちしています。
●「容器包装リサイクル法」の施行から約半年。一人ひとりの「リサイクル」への関心の高まりは、きつと環境保護につながります。県民の皆さまも容器包装のリサイクルにご協力ください。

前略 谷本知事
県政に対するご提言などを郵便またはFAXでお寄せ下さい。住所・氏名・年齢・職業も明記して下さい。
〒920-8080 (住所不要)
石川県広報広聴室
『前略 谷本知事』あて
☎076(223)9474

ほっと石川・参加者募集
「ほっと石川」では、「県政ウオッチング」に登場していただく女性リポーター、「施設ガイド」で県営施設の案内役をお願いする家族を募集しています。お問い合わせ、申し込みは、
〒920-8080 (住所不要)
石川県広報広聴室「ほっと石川」係
☎076(223)9106
☎076(223)9474
住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して下さい。